

中部支部 NEWS 27

〒399-4598

長野県上伊那郡南箕輪村8304
信州大学農学部農学生命科学科
(流域保全学研究室内)

巻頭言



幹事長 森田 耕司
(長野県砂防課長)

◆ごあいさつ

令和7年4月に長野県砂防課長に着任し、中部支部の幹事長に就任してから1年が経ちました。支部会員の皆様方には、日頃より、学会活動の進展、学術研究、技術開発、防災教育等の社会貢献を通じた多方面にわたる活動に多大なるご尽力を賜っておりますことに対し、感謝申し上げます。

◆令和7年の土砂災害

さて、令和7年は、全国で発生した土砂災害件数は578件(令和7年12月31日現在)であり、平成28年～令和7年の10年間の平均1,503件に比べても特に災害の少ない年となりました。

しかしながら、石川県におかれましては令和7年8月6日から8日にかけて、線状降水帯の発生により非常に激しい雨が降るなど、加賀北部を中心に記録的な大雨となり、土砂災害も36件発生しております。また静岡県におかれましては令和7年9月5日、掛川市八坂で土砂災害が発生し、災害関連地域防災がけ崩れ対策事業が実施されております。

長野県では、昨年は幸いにも土砂災害の少ない年となりましたが、短時間での集中的な豪雨や近隣地域での線状降水帯の発生、季節外れの気温上昇等、気候変動の影響や地震・火山活動による甚大な災害の懸念は一層高まっています。発災時に迅速な現地調査や応急復旧等の対応にご尽力いただきました支部会員の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げるとともに、災害への備えの強化に引き続きお力添えをよろしくお願い申し上げます。

◆令和7年度の支部活動

令和7年8月21日～22日には、静岡県浜松市の長沢地すべり地区において、令和6年の台風により中止となった現地見学会を実施することができました。

9月に奈良市で開催されました第64回研究発表会では、令和6年能登半島地震における地すべり・斜面崩壊の特徴や斜面对策工の設計技術に関する国際化の課題と対応をはじめ、斜面未災学(斜面災害を軽減し、人命・財産や文化・自然遺産を守ることを使命として研究を行う学問分野)など、多岐にわたる研究が紹介されました。地すべり分野における最新の研究成果や現場の知見に直接触れられたことは、会員の皆様において大変有意義な機会であり、今後の業務に直結する学びが多い貴重な時間となったものと考えております。

令和8年1月28日には、支部主催のシンポジウム「災害の記憶と、次世代へ技術を繋ぐ～諏訪の隠れた地震と豪雨災害からの教訓～」を長野市内の会場とオンラインのハイブリッド形式で開催し、総勢153名の皆様に参加いただきました。

各種イベントが無事に開催できたのも、準備・運営にご尽力いただいた関係者の皆様の賜物と、心より感謝申し上げます。

さらにアウトリーチ活動については、昨年11月に長野工業高等専門学校環境都市工学科の学生を対象に、また今年1月に信州大学理学部の学生を対象に実施しました。地すべり地形の判読やコア観察等の研修を通じ、学生の皆様に地すべりに携わる機会の創出と地すべりへの関心を高め、新たな担い手の確保につながるよう、今後も継続していくべき活動であると強く感じております。

◆結びに

中部支部では、令和8年度も引き続き、土砂災害防止技術の研究や継承、防災啓発活動などを軸に、地域の皆様のニーズを捉え、地域社会へ貢献できる活動を今後も積極的に行っていきたいと考えております。引き続き、支部会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



令和7(2025)年度 (公社)日本地すべり学会中部支部総会

- ・令和7年4月18日(金)
- ・場 所 長野市生涯学習センター(TOiGO) 大学習室1

総会(14:15~14:45)



支部運営委員会



支部総会

- 第1号議案 令和6(2024)年度事業報告に関する件
- 第2号議案 令和6(2024)年度決算報告の承認に関する件
- 第3号議案 令和7(2025)年度事業計画(案)の承認に関する件
- 第4号議案 令和7(2025)年度事業予算(案)の承認に関する件
- 第5号議案 令和7(2025)年度役員承認(案)に関する件

特別講演(15:00~16:40)

「豪雨時の流出機構における土壌水・地下水・パイプの役割を考える」

講師:京都大学 名誉教授 農学博士 **谷 誠 氏**



静岡県砂防課長杉山様から
8月開催現地検討会の告知



意見交換会(17:15~19:15)



ホテルJALシティー長野

(16F スカイバンケット白馬)

会費 7,000円(事前支払6,500円)

※ 学生 3,000円(事前支払1,500円)



令和7(2025)年度
(公社)日本地すべり学会中部支部総会・第1号議案



第1号議案 令和6(2024)年度事業報告

年 月 日	活 動 内 容	備 考
2024. 4.12(金)	◆第一回幹事会(総会議案書の検討)	
2024. 4.19(金)	◆支部運営委員会〔TOiGO 長野市 生涯学習センター〕 ◆支部総会〔TOiGO 長野市 生涯学習センター〕 ◆特別講演〔TOiGO 長野市 生涯学習センター〕 講 演:「大地震はどこでどう起きる?なぜ?いつ?」 ～能登半島地震と北信越地域の地震テクニクス～ 富山大学 名誉教授 竹内章 氏	参加者 102名
2024. 8. 2(金)	◆第二回幹事会(現地見学会・アウトリーチ活動の検討)	
2024. 8.29(木) ～8.30(金) ※ 荒天により中止	◆現地見学会・検討会(静岡県浜松市天竜区「長沢地すべり」)	参加者 一名
2024. 9.17(火) ～9.20(金)	◆第63回研究発表会及び現地見学会(宮城県仙台市)	
2024.10.25(金)	◆第三回幹事会(次年度計画・シンポジウム・アウトリーチ活動の検討)	
2024.11. 8(金)	◆中部支部シンポジウム(TOiGO 長野市 生涯学習センター, オンライン) テーマ:「能登半島地震 地震後の経過と事業について」 講 演:「能登半島地震後の現状と地すべり学会本部の動きについて」 日本地すべり学会中部支部 支部長 堤 大三 氏 「能登半島地震災害後に発生した斜面変動の紹介」 国土防災技術株式会社 福井支店 銭谷聡 氏 「能登半島地震発災後の初動対応について」 日本工営株式会社 北陸事務所 法水哲 氏 パネルディスカッション 「能登半島地震 大地震における初動調査のあり方と復旧への課題について」	参加者 135名
2024.11.19(火) 11.26(火)	◆アウトリーチ活動(2回) 「環境防災学～地すべりってなに?～」への講師派遣 (対象:長野工業高等専門学校 学生24名)	講師 7名 スタッフ 1名
2025. 1.10(金)	◆第四回幹事会(本年度総括と次年度計画の検討)	
2025. 3.31(月)	◆中部支部ニュース発行	



令和7(2025)年度 (公社)日本地すべり学会中部支部総会・第2号～3号議案

第2号議案 令和6(2024)年度決算報告

☆収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引	摘 要
1. 事業収益	1,120,000	477,000	△643,000	
シンポジウム収益	290,000	216,000	△74,000	・申込数が想定を下回ったため
現地検討会収益	560,000	0	△560,000	・台風接近のため中止
技術講習会収益	270,000	261,000	△9,000	
その他事業収益	0	0	0	
出版収益	0	0	0	
2. 協賛・寄付	990,000	990,000	0	
特別協賛法人	250,000	250,000	0	50,000×5口(5法人)
協賛法人	740,000	740,000	0	20,000×37口(37法人)
受取寄付金	0	0	0	
3. 雑収益	0	5,000	5,000	・技術指針販売
4. 受取利息	0	464	464	
5. 預り金	0	0	0	
小 計	2,110,000	1,472,464	△637,536	
6. 本部からの運転資金	300,000	300,000	0	・当初想定事業内容の実施見込みがつか なかったため申請せず
7. 若手会員対策事業	170,000	0	△170,000	
当期収益合計(A)	2,580,000	1,772,464	△807,536	

当期収益合計(A) 1,772,464 円

当期費用合計(B) 1,791,162 円

当期収支差額(C=A-B) △18,698 円

前期繰越額(D) 999,493 円

保証金(E) △396,000 円

次期繰越額(C+D+E) 584,795 円(2025年度へ繰越)

★支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引	摘 要
1. 事業費	2,377,110	1,478,224	△898,886	
シンポジウム会費	594,500	740,341	145,841	・講演者増のため支出増
現地検討会費	910,000	10,370	△899,630	・台風接近のため中止
技術講習会費	455,500	383,018	△72,482	・対面のみ開催(ハイブリッド対応無し)
その他事業費	417,110	344,495	△72,615	・ホテル→TOiGO開催としたため支出減 ・支部ニュース発行・技術指針関連支出 ・アウトリーチ若手育成活動(2回実施)
2. 管理費	284,000	312,938	28,938	
給与手当	0	0	0	
会場費	21,000	21,270	270	
会議費	170,000	124,777	△45,223	・会議へのオンライン参加が多く支出減
印刷製本費	13,000	15,892	2,892	
旅費交通費	66,000	92,270	26,270	・ホテル代の値上げのため支出増
通信運搬費	10,000	18,984	8,984	・資料等の送付増
消耗品費	1,000	26,930	25,930	・ワイヤレスHDMI購入
備品費	0	0	0	
外注費	0	0	0	
支払手数料	2,000	5,060	3,060	
福利厚生費	0	7,315	7,315	・市電等
雑費	1,000	440	△560	
当期費用合計(B)	2,661,110	1,791,162	△869,948	

第3号議案 令和7(2025)年度事業計画(案)

年 月 日	活 動 内 容	備 考
2025.4.11(金)	◆第一回幹事会(総会議案書の検討)	
2025.4.18(金)	◆支部運営委員会〔TOiGO 長野市生涯学習センター〕 ◆支部総会〔TOiGO 長野市生涯学習センター〕 ◆特別講演〔TOiGO 長野市生涯学習センター〕 講演:「豪雨時の流出機構における土壌水・地下水・パイプの役割を考える」 京都大学 名誉教授 農学博士 谷 誠 氏	
2025.8. 上旬	◆第二回幹事会(現地見学会・シンポジウム・アウトリーチ活動の検討)	
2025.8.21(木) ～8.22(金)	◆中部支部現地見学会〔静岡県浜松市天竜区「長沢地すべり」〕	
2025.9.16(火) ～9.19(金)	◆第64回研究発表会及び現地見学会〔奈良県奈良市〕	
開催時期未定	◆アウトリーチ活動(前年度実績11月) (一般や学生を対象とした防災教育等(調整中))	
2025.10. 上旬	◆第三回幹事会(次年度計画の検討・シンポジウムの準備)	
2025.10.17(金)	◆中部支部シンポジウム〔TOiGO 長野市生涯学習センター〕 テーマ:未定 基調講演:未定 話題提供:未定 総合討論:未定	
2026.1. 上旬	◆第四回幹事会(令和7年度総括と次年度計画の検討)	
2026.3. 下旬	◆中部支部ニュース発行	
中部支部受託業務 履行期間 2025.3. 5(水) 2026.3.25(水)	長野県から「地すべり技術指針改訂検討業務」を受託 受託費は第四号議案(収入の部 1.事業収益 その他事業収益)、業務担当者は 第五号議案(改訂検討委員会)参照	



令和7(2025)年度 (公社)日本地すべり学会中部支部総会・第4～5号議案



第4号議案 令和7(2025)年度事業予算(案)

☆収入の部

科 目	今年度予算	前年度予算	差 引	摘 要
1. 事業収益	5,415,000	1,120,000	4,295,000	・各事業収益は意見交換会費、参加費等
シンポジウム収益	342,500	290,000	52,500	・会場費等高騰のため参加費増額
現地検討会収益	820,000	560,000	260,000	〃
技術講習会収益	292,500	270,000	22,500	〃
その他事業収益	3,960,000	0	3,960,000	・技術指針改定 委託業務受託
出版収益	0	0	0	
2. 協賛・寄付	990,000	990,000	0	
特別協賛法人	250,000	250,000	0	50,000×5法人
協賛法人	740,000	740,000	0	20,000×37法人
受取寄付金	0	0	0	
3. 雑収益	0	0	0	
4. 受取利息	0	0	0	
5. 預り金	0	0	0	
小 計	6,405,000	2,110,000	4,295,000	
6. 本部からの運転資金	300,000	300,000	0	・本部支出基準に適合のため申請可
7. 若手会員対策事業	170,000	170,000	0	・若手育成会員対策事業申請(予定)
当期収益合計(A)	6,875,000	2,580,000	4,295,000	

当期収益合計(A) 6,875,000円
 当期費用合計(B) 7,115,000円
 当期収支差額(C=A-B) △240,000円
 前期繰越額(D) 584,795円
 保証金返却(E) 396,000円
 次期繰越額(C+D+E) 740,795円 (2026年度へ繰越)

★支出の部

科 目	今年度予算	前年度予算	差 引	摘 要
1. 事業費	6,827,000	2,377,110	4,449,890	
シンポジウム会費	757,000	594,500	162,500	・ハイブリッド開催(長野市TOIGO)
現地検討会費	1,236,700	910,000	326,700	・宿泊開催(1泊2日)・@静岡県
技術講習会費	488,000	455,500	32,500	・対面のみ開催(長野市TOIGO)
その他事業費	4,345,300	417,110	3,928,190	・支部ニュース発行・技術指針改訂作業 ・QR碼手育成(2回)・公式HP改修
2. 管理費	288,000	284,000	4,000	
給与手当	0	0	0	
会費	21,000	21,000	0	
会議費	130,000	170,000	△40,000	・対面開催(4回)・R6実績より減額
印刷製本費	16,000	13,000	3,000	
旅費交通費	93,000	66,000	27,000	・R6実績より増額
通信運搬費	20,000	10,000	10,000	〃
消耗品費	1,000	1,000	0	
備品費	0	0	0	
外注費	0	0	0	
支払手数料	6,000	2,000	4,000	・R6実績より増額
福利厚生費	0	0	0	
雑費	1,000	1,000	0	
当期費用合計(B)	7,115,000	2,661,110	4,453,890	

第5号議案 令和7(2025)年度役員名簿(案)

役 職	員 数	氏 名	所 属 等
支 部 長	1名	堤 大三 (つつみ だいそう)	信州大学
顧 問	6名	中村 三郎 (なかむら さぶろう)	防衛大学校名誉教授
		土屋 智 (つちや さとし)	静岡大学名誉教授
		林 拙郎 (はやし せつお)	三重大学名誉教授
		赤羽 貞幸 (あかはね さだゆき)	信州大学名誉教授
		八嶋 厚 (やしま あつし)	岐阜大学名誉教授
		平松 晋也 (ひらまつ しんや)	信州大学名誉教授
副支部長	3名	大西 竜太 (おおにしりゅうた)	国土交通省中部地方整備局
		古谷 元 (ふるや げん)	富山県立大学
		沢田 和秀 (さわだ かずひで)	岐阜大学
監 事	2名	西澤 賢 (にしざわ まさる)	長野県砂防課
		村瀬 雅人 (むらせ まさと)	長野県農地整備課
幹 事 長	1名	森田 耕司 (もりた こうじ)	長野県砂防課
副幹事長	6名	牧 昌志 (まき まさし)	愛知県砂防課
		橋本 浩一 (はしもと こういち)	石川県砂防課
		遠藤 協一 (えんどう きょういち)	岐阜県砂防課
		杉山 一仁 (すぎやま かずひと)	静岡県砂防課
		松本 直樹 (まつもと なおき)	富山県砂防課
		高波瀬 吉弘 (こうはせ よしひろ)	三重県防災砂防課
幹 事	18名	梅崎 健夫 (うめざき たけお)	信州大学 編集出版
		福山 泰治郎 (ふくやま たいじろう)	信州大学 企画・総務
		飯沼 達夫 (いひぬま たつお)	日本工営(株) 企画
		嶋田 隆信 (しまだ たかのぶ) *	(株)みずす総合コンサルタント 企画
		島田 千亜紀 (しまだ ちあき)	Office アシスト・ゼロ 企画
		曽野 明洋 (その あきひろ) *	日本工営(株) 企画
		小山 正裕 (こやま まさひろ)	国土防災技術(株) 企画
		田邊 智司 (たなべ さとし)	総合地質コンサルタント(株) 企画
		廣瀬 一聖 (ひろせ いっせい) *	北陽建設(株) 企画
		矢島 光一 (やじま こういち) *	国土防災技術(株) 企画
		山田 泰弘 (やまだ やすひろ)	国土防災技術(株) 企画・WG対応1
		浅野 弘貴 (あさの ひろき)	長野県砂防課 総務
		日詰 文太 (ひづめ ぶんた)	長野県森林づくり推進課 総務
		堀 健人 (ほり けんと)	長野県砂防課 総務
		宇野 智博 (うの ともひろ) *	(株)日さく 総務
		剣持 淳二 (けんもち じゅんじ) *	日本総合建設(株) 総務・WG対応2
		桜井 千寛 (さくらい ちひろ) *	総合地質コンサルタント(株) 総務
		宮澤 洋介 (みやざわ ようすけ)	北陽建設(株) 会計



※ 令和6年度に承認された役員(任期2年)ですが、異動に伴い9名(アンダーライン)が交代致します。



令和7(2025)年度

(公社)日本地すべり学会中部支部 活動報告(現地見学会)

令和6年度に計画していたものの、台風襲来により中止となった静岡県長沢地すべりの現地見学会について、令和7年度の現地見学会で改めて計画し開催いたしました。

1年越しの開催となりましたが、当日は好天に恵まれ、80名もの参加者を迎える盛況な行事となりました。

開催報告

- ・場所：静岡県浜松市天竜区 長沢地すべりほか
- ・日時：2025年8月21日(木) 12:30～8月22日(金) 12:00
- ・宿泊：浜松市舘山寺温泉「開華亭」
- ・参加者 80名
(学会員27名、治水砂防協会静岡県支部21名、
協賛法人17名、一般13名、学生2名)



1日目 (2025.8.21 12:30-16:30 長沢地すべり～渡ヶ島禿石災害 移動含む)



長沢地すべり対策工事を背景に記念撮影(2025.8.21)



長沢地すべり 現場説明状況



渡ヶ島禿石急傾斜地 現場説明状況

2日目 (2025.8.22 9:00-12:00 浜松総合庁舎 1F会議室)



会場の様子(開会挨拶 堤支部長)



静岡県砂防課長 杉山氏(中部支部副幹事長)

検討会次第

- ・開会 支部長挨拶
信州大学農学部 教授 **堤 大三 氏**
- ・静岡県の土砂災害対策について
静岡県交通基盤部 河川砂防局砂防課 課長 **杉山 一仁 氏**
(日本地すべり学会中部支部 副幹事長)
- ・長沢地すべり災害の初動対応から警戒避難体制について
静岡県浜松土木事務所天竜支局 支局長 **井倉 基 氏**
- ・長沢地すべりの発生から対策工検討について
日本工営株式会社 静岡事務所 **富田 秀樹 氏**
- ・長沢地すべり災害関連工事の施工方法について
天龍土建工業株式会社 **鈴木 芳典 氏**
- ・ディスカッション 司会
国土防災技術(株) **山田 泰弘 氏**



【告知】令和8年度 現地見学会計画地(案)

- ・開催県 候補地 :石川県 能登半島地震で発生した地すべり
- ・開催時期 :8月～9月上旬頃を予定
- ・募集人数 :40名程度



(文責 企画幹事 小山)



令和7(2025)年度

(公社)日本地すべり学会中部支部 活動報告(シンポジウム)

令和7年度▼(公社)日本地すべり学会中部支部 活動報告(シンポジウム)

令和8年1月28日(水)、長野県長野市生涯学習センターTOiGOにて中部支部シンポジウムが開催されました。当日は、会場参加71名、オンライン参加82名の合わせて153名の方々に参加いただき、コロナ禍以降では最大の参加者数となりました。

日本各地で能登半島地震をはじめとする地震災害や、気候変動に伴う大雨・融雪による土砂災害、地すべり災害等が頻発し、地域社会に深刻な脅威をもたらしています。災害に備えるためには、過去の災害の伝承や記録を教訓として、地域社会や次世代へ確実に伝え、防災啓発・防災教育の場で広く共有することが求められています。

そこで今回のシンポジウムでは、「災害の記憶と、次世代へ技術を繋ぐ ～諏訪の隠れた地震と豪雨災害からの教訓～」をテーマに掲げました。

基調講演では、長野県諏訪地域における昭和東南海地震(昭和19年)の被害伝承を通じ、子どもたちを対象とした防災教育のあり方について、伊那市立東春近小学校 教諭 奥山加蘭氏に講演いただきました。

講演1では、国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所 所長 吉田桂治氏より「天竜川上流域での災害伝承と治水・砂防」と題し、天竜川の上流域における災害や防災教育、伝承といった多角的な観点から治水・砂防について講演いただきました。

講演2では、伊那ケーブルテレビジョン放送部 アナウンサー 平山直子氏より「マスメディアの防災啓発について ～伊那谷災害・東日本震災を通して～」と題し、災害時の情報収集、一般市民への危険性や避難の呼びかけなどマスメディアの発信力について、そして語り継がれるべき防災意識や、その様々な伝え方について講演いただきました。

パネルディスカッションでは、前述の講演者の方々に加え、長野県土尻川砂防事務所 所長 玉川博之氏にも参加いただき、コメンテーターに(公社)日本地すべり学会中部支部 支部長 堤大三氏を迎え、これから私たちが取り組むべき防災活動や、地域で活動する若手技術者の役割、人材育成の課題や方策について、(公社)日本地すべり学会 副会長である飯沼達夫氏のコーディネートのもと、参加者とともに活発な意見交換が行われました。

シンポジウム後に寄せられた意見や感想においては、自然災害に対する様々な立場からの記憶と次世代に繋ぐべきものを多角的に捉えることができたなど、有意義な声が聞かれました。



パネルディスカッション



開会あいさつ



基調講演



令和7年度
(公社)日本地すべり学会中部支部シンポジウム

令和8年1月28日(水)
13:00~17:15

伊那市生涯学習センター TOIGO 大学室1(4階)
zoomオンライン同時開催

「災害の記憶と、次世代へ技術を繋ぐ」
「諏訪の隠れた地震と豪雨災害からの教訓」

＜基調講演＞
奥山 加蘭 (おくやま からん) 氏
伊那市立東春近小学校 教諭
「知られざる東海地震」
「諏訪地域の地震被害の伝承と教育」

＜話題提供＞
天竜川上流河川事務所 吉田桂治 氏
「天竜川上流域での災害伝承と治水・砂防」
伊那ケーブルテレビ アナウンサー 平山直子 氏
「マスメディアの防災啓発について」
「伊那谷災害、東日本震災を通して」

＜パネルディスカッション＞
パネリスト: 奥山直子氏、吉田桂治氏、平山直子氏、
玉川博之氏(長野県土民川砂防事務所長)
コメンテーター: 日本地すべり学会中部支部長 堤大三 氏
司会: 日本地すべり学会副会長 飯沼達夫 氏

意見交換会(要事前申込) 伊那JALシー・長野 18:00~20:00
【会費制】 事前申込 一般6,500円・学生1,500円
当日払い 一般8,000円・学生3,000円

【参加費】聴講無料※
※オンライン参加費 2,000円(ただし下記の特典は無し)
学生会員(個人・法人・学生)、学生、研究・教育関係、若手、中部支部関係者
詳細は申込書をご確認ください

【問合せ先】
(公社)日本地すべり学会中部支部事務局
日本地すべり学会 事務局 電話026-226-0381
mail: jisubericubu@gmail.com
後援: 長野県治水砂防協会・長野県地質ボーリング協会・株式会社 新築新聞・(一社)斜面防災対策技術協会長野支部

CPD 4.0
建設系CPD協議会
JAFEE認定
【聴講無料】



奥山 加蘭 氏
伊那市立東春近小学校
教諭



吉田 桂治 氏
天竜川上流河川事務所
所長



平山 直子 氏
伊那ケーブルテレビジョン
アナウンサー



玉川 博之 氏
長野県土民川砂防事務所
所長



堤 大三 氏
中部支部 支部長



飯沼 達夫 氏
日本地すべり学会
副会長



令和7(2025)年度

(公社)日本地すべり学会中部支部 アウトリーチ活動報告①

長野工業高等専門学校「環境防災学～地すべりってなに?～」 (令和7年11月21日、28日)

令和7年度のアウトリーチ活動①として、恒例行事となりつつある長野工業高等専門学校「環境防災学」へ講師の派遣を行いました。

これまで同様に、1日目には「地すべり現象」や「災害や地すべりに関わる仕事」についての講義、2日目には「地すべり地形判読」のグループワークを1班5人程度に分けて行いました。

継続的に行っている行事ではあるものの、毎年講師陣や長野高専生は違うため、講義の雰囲気やグループワークの地形判読結果は違っているのも、とても興味深いものがあります。

また、昨年度から日程を2日間にする等、毎年新しい取り組みを行っており、今年度は講師として信州大学農学部学生に参加してもらいました。

長野高専生に近い立場や目線をもつ、信大農学部生に研究紹介の講義やグループワークのサポートをして頂けたことで、長野高専生はより興味を持って講義に耳を傾けたり、グループワークを活発に行ったりと、例年とはまたひと味違った雰囲気のアウトリーチ活動にすることが出来ました。

「環境防災学 ～地すべりってなに?～」

日時：1回目 令和7年11月21日(14:30～16:00)
2回目 令和7年11月28日(14:30～16:00)

場所：長野工業高等専門学校

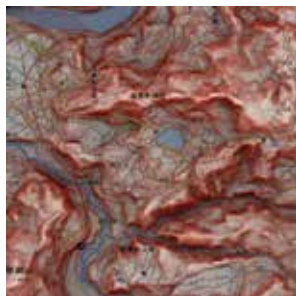
講義：11月21日

14:30～「地すべり現象とは」	小林 裕典 氏
14:55～「大学生の研究紹介」	河合 建祐 氏、杉山 薫子 氏
15:10～「仕事の紹介1(行政機関)」	日詰 文太 氏
15:25～「仕事の紹介2(調査会社)」	井原 潤 氏
15:40～「地すべり対策事業について」	村瀬 雅人 氏



11月28日

14:30～「地形の読み取り方・グループワークの課題説明」	山崎 健仁 氏
14:50～グループワーク 「小松原地すべりの地すべり地形判読」 (長野市篠ノ井 国道19号隣接斜面)	
15:30～「新技術の紹介」	堀 健人 氏
15:45～「地すべり学会の活動紹介」	池部 功一 氏



運営スタッフ



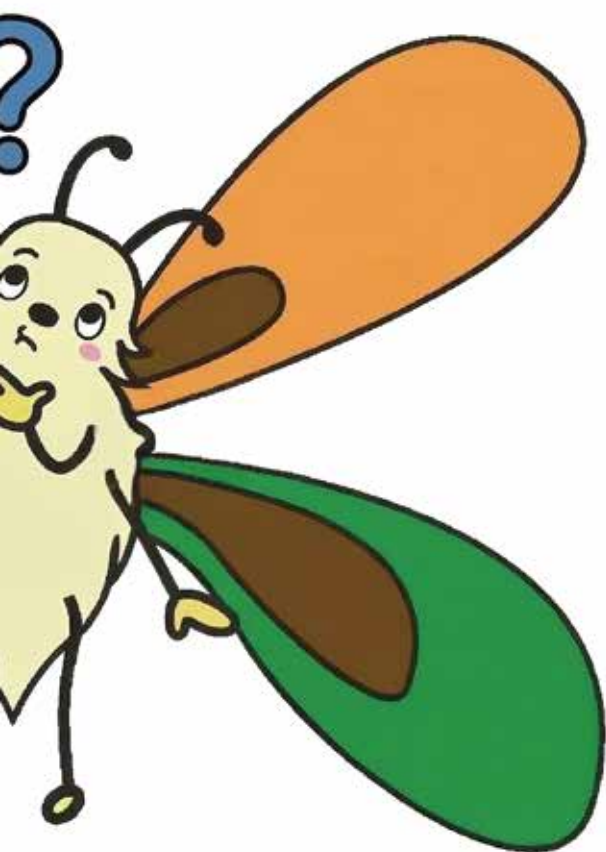
公益社団法人
日本地すべり学会
The Japan Landslide Society

・企画幹事 山田 泰弘
(国土防災技術株式会社 勤務)
・総務幹事 剣持 淳二
(日本総合建設株式会社 勤務)





講師派遣



グループワーク

講師の感想

講師名：河合 建祐(11月21日参加)

所属は信州大学大学院です。

私は現在大学で取り組んでいる研究の概要を発表しました。専門的な研究の内容ということで、どうしても理解するのが難しい部分もあったと思いますが、それでも興味をもって真剣に話を聞いてくれていた高専の学生さんの姿勢が印象的でした。普段はなかなか知り得ないことですが、砂防や地すべりに関わる大学生がどのような研究をしているのか伝わっていただければ幸いです。

グループワーク担当：安藤麦(11月28日参加)

信州大学大学院で、砂防学を専攻しています。

今回は等高線のデータを元に地すべり地形の判読を行いました。高専の学生たちは普段土木の勉強をしているとはいえ、地すべりについて学ぶことは初めてだということでした。しかし、これまでの経験や高専の授業で学んだこと、1回目の地すべりの事前知識等を用いて等高線のデータのみという少ない情報から、色々な可能性を導き出していました。

今回の活動は、地すべりについて知ってもらう大事な機会になったと感じております。



令和7(2025)年度

(公社)日本地すべり学会中部支部 アウトリーチ活動報告②

信州大学理学部地球学コース「地質調査法実習Ⅱ～地すべり調査～」(令和8年1月23日)

令和7年度のアウトリーチ活動②として、信州大学理学部地球学コース「地質調査法実習Ⅱ」へ講師の派遣を行いました。午前から午後にかけて3コマ分の授業時間を頂き、充実した授業が出来ました。

普段学んでいる地質学が、地すべり調査や公共事業の中でどのように活かされているか、講義や実習を通して学んでももらいました。ボーリングコア観察実習では、地質学を専攻している学生だけあってコアを食い入るように観察しており、すべり面を示す鏡肌を見せた際には歓声も上がるほどでした。また、地すべり観測実習では、実際の機器を用いて、伸縮計のワイヤーを伸縮させたり、パイプ歪計を押して歪値を体感したりしながら、観測機器の原理や特性を学んでももらいました。



地すべりとは」「地質調査と公共事業」の講義



調査	調査地	調査日	調査者	調査結果	備考
調査1	調査地1	調査日1	調査者1	調査結果1	備考1
調査2	調査地2	調査日2	調査者2	調査結果2	備考2
調査3	調査地3	調査日3	調査者3	調査結果3	備考3
調査4	調査地4	調査日4	調査者4	調査結果4	備考4
調査5	調査地5	調査日5	調査者5	調査結果5	備考5
調査6	調査地6	調査日6	調査者6	調査結果6	備考6
調査7	調査地7	調査日7	調査者7	調査結果7	備考7
調査8	調査地8	調査日8	調査者8	調査結果8	備考8
調査9	調査地9	調査日9	調査者9	調査結果9	備考9
調査10	調査地10	調査日10	調査者10	調査結果10	備考10

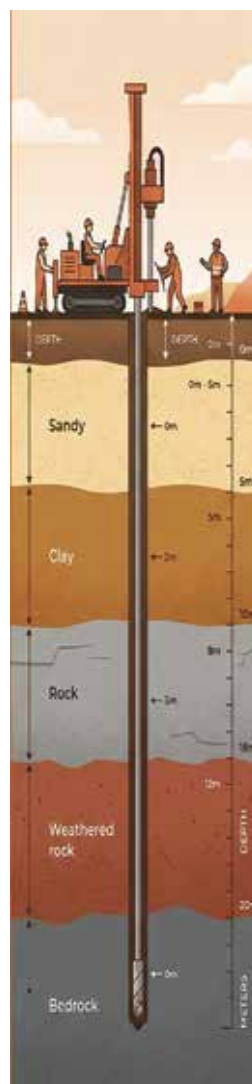
ボーリングコア観察、柱状図作成実習



観測実習(伸縮計とパイプ歪計)



協力してくれた講師の皆さん





中部支部のアウトリーチ活動：次世代へつなぐ地すべり防災の未来

中部支部のアウトリーチ戦略



若手技術者と学生が主役の運営体制
企画立案から講師まで若手が担当し、参加者と共に成長できる活動を目指しています。



防災教育を通じた「人づくり」
地すべり分野の将来を担う研究者・技術者を増やすため、学生を主な対象としています。

中部6県全域への活動拡大

長野県での実績を基に、範囲を広げます。



告知

第65回(2026年度)
(公社)日本地すべり学会研究発表会及び現地見学会のお知らせ



※大会の概要は学会ホームページにおいて随時最新情報をお知らせしますので、確認をお願いいたします。

【会場】

- ・研究発表会：Gメッセ群馬会議施設(JR 高崎駅徒歩15分)
- ・意見交換会：エテルナ高崎(高崎駅徒歩3分)

大会スケジュールの概要

長野県での実績を基に、範囲を広げます

9月15日(火) 県民講演会
(14:00-16:00)

9月16日(水) 開会式、表彰式
特別講演、研究発表会
意見交換会

9月17日(木) 研究発表会

9月18日(金) 現地見学会





令和7(2025)年度 国土交通省インフラDX大賞の受賞者紹介(中部支部管内)

しあわせ  信州

自然を守り共に生きる

長野県(建設部)プレスリリース 令和7年(2025年)12月18日

長野県で初めて 建設部 砂防課の取組が 「インフラDX大賞」優秀賞に選ばれました!!

国土交通省は、インフラ分野において、データとデジタル技術を活用し、建設生産プロセスの高度化・効率化や国民サービスの向上等につながる優れた実績をベストプラクティスとして横展開するため、「インフラDX大賞」を実施しています。

今般、「令和7年度インフラDX大賞」の地方公共団体の取組部門として、建設部砂防課の「システム構築による砂防業務の支援」の取組が優秀賞に選ばれました。

1 受賞した取組の概要(システム構築による砂防業務の支援)

- ・ 自然災害の激甚化を背景に、防災情報の重要性が一層高まっている状況を踏まえ、情報の更新・管理・提供を支援するシステムを構築し、防災情報の迅速かつ分かりやすい情報提供を実現しました。
- ・ 本取組で構築したwebサイト「**信州 砂防情報マップ**」では、土砂災害のおそれのある区域や、県の整備した砂防設備等の情報を公開しています。土砂災害への日頃からの備えとしてお役立てください。
※URL :<https://www.sabo.pref.nagano.lg.jp/sabogis/>
- ・ 取組の詳細は別紙をご覧ください。



「信州 砂防情報マップ」
画面イメージ

2 インフラDX大賞について

- ・ 建設現場の生産性向上に向けて、平成29年度から「i-Construction大賞」を実施
- ・ 令和4年度からは、「インフラDX大賞」と改称し、インフラの利用・サービスの向上といった建設業界以外の取組へも募集対象を拡大

3 表彰対象・審査

- ・ 令和6年度に完了した、国や地方公共団体等が発注した工事・業務に関する企業の取組や地方公共団体等の取組等を対象
- ・ 今年度の地方公共団体の取組部門は、国土交通大臣賞2団体、優秀賞5団体が受賞
- ・ インフラDX大賞選考委員会により有効性・先進性・波及性の観点で審査
- ・ 授与式は1月中旬に国土交通省で実施されます。詳細は国土交通省HPをご覧ください。

https://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08_hh_001273.html



©長野県アルクマ
長野県PRキャラクター「アルクマ」

治水 ONE
NAGANO

～みんなでとりくむ『流域治水』～

長野県は『流域治水』を推進しています!



Youtubeで
動画配信中!

(問合せ先)

担当 建設部砂防課調査管理係 森田、丸山

電話 (直通) 026-235-7315

(代表) 026-232-0111 (内線) 3464

FAX 026-233-4029

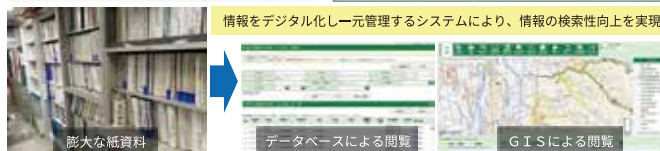
メール sabo@pref.nagano.lg.jp

国土交通省

情報の作成から管理をシステムで行うことで、情報管理の負担軽減や、誤った情報更新の防止を実現

Figure 1: Comparison of the traditional and new business processes. The left side shows a traditional process with steps: 1. 需求收集 (Requirement Collection), 2. 需求分析 (Requirement Analysis), 3. 需求变更 (Requirement Change), 4. 设计 (Design). It includes a circular flow for '需求变更' and '设计' with labels '变更' and '设计'. The right side shows a new process with steps: 1. 需求收集 (Requirement Collection), 2. 需求分析 (Requirement Analysis), 3. 需求变更 (Requirement Change), 4. 设计 (Design). It includes a circular flow for '需求变更' and '设计' with labels '变更' and '设计'. The new process also includes a '需求变更' step and a '设计' step.

情報をデジタル化し一元管理するシステムにより、情報の検索性向上を実現



情報を管理するシステムとの連携により、迅速な情報提供を実現
航空写真や赤色立体地図など多様な背景図により、分かりやすい情報提供を実現

- ～中部支部管内の受賞者～

 国土交通省

[illegible] 国土交通省

【取組概要】

ペーパ上の契約書を形式化して蓄積するクラウドマネジメントシステム「e契約」に、新たに電子署名・暗号化機能の付加を目的として、ペーパーから電子への変換・伝送・格納するシステムを開発した。

- システムはSNSのような高い操作性のアプリにAIチャットを組み合わせたことで、データの蓄積と活用を容易にした。既に1万超3500件以上の記事が投稿されており、社員半数以上が月に10回以上使用すると、業務遂行に大きな技術促進に有効である。
- 土米のような専門分野では生成AIが得意な回答を得るために、RAG(検索拡張生成型)に専門知識を含むドキュメントを与えている。通常の業務文書とAIが読み込ませるのではなく、共有すべき知識にだけ整理・構造化した情報で生成AIに与える手法は先進的なのである。
- パターン知識を形式化してデータベースに蓄積し、RAG方式の生成AIと連携させることで、必要と情報を効率と取引のスピードを、多くの組織に適用可能な手法である。事実として、専門知識の蓄積を必要とする多くの組織が簡単に採用し、技術的な高度化と効率化に寄与する手法である。

3



特別協賛法人 (5口)



長野県治水砂防協会



一般社団法人
斜面防災対策技術協会
JASDIM Japan Association for Slope Disaster Management
富山支部



一般社団法人
斜面防災対策技術協会
JASDIM Japan Association for Slope Disaster Management
石川支部



一般社団法人
斜面防災対策技術協会
JASDIM Japan Association for Slope Disaster Management
長野支部



一般社団法人
斜面防災対策技術協会
JASDIM Japan Association for Slope Disaster Management
静岡支部

協賛法人 (37口)

アスザック株式会社	有限会社アルプス調査所	建設の専門家 株式会社 アンドー	株式会社 エスイー
応用地質株式会社 応用地質 長野支店	OSASI OSASI TECHNOS INC.	小谷建設株式会社	Office アシタ・ゼロ
川崎地質株式会社 Kawasaki Geological Engineering Co., Ltd. 中部支社	KOWA 大地と水に取り囲む 興和 — Since 1959 —	国土防災技術株式会社 静岡支店	国土防災技術株式会社 長野支店
株式会社 サクセン	サンスイ・ナビコ 株式会社	GEEBEC 株式会社 ジーベック	総合地質コンサルタント株式会社 Soge Geological Consultant
株式会社 中部森林技術コンサルタント	中部測地研究所 生きている地球を科学する	中部地下開発株式会社	株式会社 千代田コンサルタント CHIYODA ENGINEERING CONSULTANTS CO., LTD.
株式会社東京電機	長野県 地質ボーリング業協会	株式会社 日さく NIPPON TECH ENGINEERING KOBAN 長野営業所	NITTOC 日特建設株式会社 長野営業所
NITTOC 日特建設株式会社 名古屋支店	日本工営株式会社	NIPPON KOEI 日本工営株式会社 長野事務所	NIPPON KOEI 日本工営株式会社 名古屋支店
日本総合建設株式会社 土砂災害対策と地質調査のバイオア	株式会社富士和	フロテックアンカー 技術研究会	株式会社北信ボーリング
北陽建設株式会社 自然環境を守り、安心して暮らせる社会を創る Hokuyo construction Co., Ltd.	MISUZU 株式会社 みすず総合コンサルタント	株式会社 守谷 商会	株式会社ランドテクト
株式会社鷺澤建設	(敬称略) (令和8年3月31日現在)		

日本地すべり学会
中部支部キャラクター



公益社団法人 日本地すべり学会 中部支部
中部支部NEWS編集部

中部支部NEWS第27号

編集：合同会社ジェイライン/表紙デザイン：トータル山本
イラスト：トータル山本、イラストAC

©日本地すべり学会中部支部, 2026, Printed in Japan
無断複製・記事の転載を禁止します。

【公式URL】



(公式情報、申込書のダウンロード等)

【YouTube】



(過去のイベント動画)

【Facebook】



(最新情報・速報)

【Instagram】



公式サイトやSNSでは行事案内やオンライン企画イベントなど動画を配信中です！